

医療

知っておきたい医療知識

シリーズ

歯科治療最前線

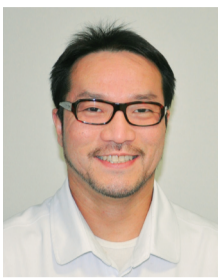
「乳歯」「永久歯」に続く第3の歯「インプラント」

インプラント治療その① 治療前の基礎知識

歯の欠損治療の一つとして急速に普及してきた「インプラント治療」。入れ歯やブリッジと違い、治療を受ける前に具体的内容を知らなければいけないと思いませんか。そこで今回は「インプラント治療その① 治療前の基礎知識」を取り上げてみました。

「第3の歯」といわれる「インプラント」

歯が欠損した時、従来までは「入れ歯（義歯）治療」「ブリッジ治療」しかありませんでした。しかし、約40年前、それらのデメリットを解消できる治療として「インプラント治療」が導入されました。その後、さまざまな技術、器具、材料が開発され、現在では社会的認知度も



熊本インプラントセンター
添島歯科医院 添島 英輔 副院長
日本歯周病学会 会員
日本アンチエイジング歯科学会 理事

歯科医からのアドバイス Q&A

インプラント治療その①正しい基礎知識

インプラント治療は外科手術が必要となるため、治療を受けようとする人で、不安を抱える人は多いと思います。そこで今回は「インプラント治療その① 正しい基礎知識」と題して、治療に入る前のごく初めに、添島歯科医院（熊本市桜町）の添島英輔副院長に、お話を伺いました。

入れ歯、ブリッジに満足しない人に最適

インプラント治療の有効性や勧めた人はどんな人ですか？

インプラント治療の有効性については、前号「歯の欠損治療」の中で、ブリッジや入れ歯などと比較して書いてありますが、固定式のため違和感が少ない、天然歯とほぼ同じように噛める、ブリッジのように

高まり、注目を集めている治療ともいえます。

インプラントとは英語で「埋め込む、移植する」という意味です。失った自分の歯の代わりに人工歯根を埋め込み、人工の歯を装着させる方法です。入れ歯は噛みこたえが悪い、違和感がある、ブリッジは両隣の健康な歯を削らなくてはならないなど、いくつかの欠点を補えるといった利点があります。インプラントは自分の歯のように違和感がなく、自然に噛めるため乳歯、永久歯に続く「第3の歯」といわれています。

熊本県内の専門医は現在18人

ある大学の教授は、「日本口腔インプラント学会の会員数も1万人を超え、インプラント治療ができる歯科医が全国的に増えてきたことは喜ばしいことです。」

隣の歯を削る必要がない、見た目も天然歯に近く、長期間維持できる点などが挙げられます。加えるとするとQOL（生活の質）を高めることができます。対象者は入れ歯が嫌いな人、隣の歯を削りたくない人や天然歯のような歯が欲しい人などにお勧めです。

骨の移植や人工骨使用も

入れ歯やブリッジの人がインプラントに代えることはできますか？

歯を失った部分の顎の骨に問題がなければ代えることができます。骨が薄いとかが幅が狭いなどの場合は、ご自分の骨を一部移植したり、人工骨を使用しインプラントを入れるスペースを確保すれば、治療はできます。ただし、その場合は骨がしっかりと形成される時間が必要となりますので、数カ月から1年程度かかる場合もあります。

治療が困難なケースとは

インプラント治療が難しい対象の人はいますか？

インプラント治療は可能ですが、たいいていの場合、治療は可能ですが、骨が成長段階にある若い人は、成長



ただ、インプラント治療は外科手術を必要としますので、歯科医の技術はもちろ

手術環境やスタッフのレベルアップなど十分な体制で行うことが必要不可欠です。それが安心・安全な治療につながります」と話していました。インプラント治療は前号でメトリックや留意点を掲載しています。熊本県内には現在18人の専門医がいて、日本口腔インプラント学会のホームページに氏名が掲載されていますので、確認することができます。もちろん専門医の資格を持つていなくても治療はできます。治療に不安な人、いろいろと相談したい人は、専門医やかかりつけ医など複数の歯科医に話を聞いた上で、治療を選択するといでしょう。（次号では具体的な治療方法などについて掲載します）

治療前に正しい基礎知識取得を

インプラント治療を受ける前に、正しい基礎知識の取得方法は？

ホームページなどでインプラント治療の情報がたくさん出ていますが、全てを呑み込んでいくのではなく参考程度にして下さい。手術を必要としますので、インプラント治療に対して不安な方がおられると思います。その場合の一つの目安として、学会が認めた専門医の資格を持っている先生に相談されるとよいでしょう。治療の進め方やリスクなどを十分聞かれ、納得した上で判断されることは非常に大事なことです。

（社）日本口腔インプラント学会指定研修施設
熊本インプラントセンター
添島歯科医院
熊本市桜町1-28-205 桜町センタービル2階
0120-354-508
http://www.soejima-sika.com/

地域医療最前線

急増する大腸がん

定期的な内視鏡検査を



院長 後藤 英世

食生活の欧米化などに伴い、大腸がんになる人が年々増えています。大腸がんは早期に発見したり、大腸ポリープの段階で切除することで発症を予防することが可能です。今回は、服部胃腸科（熊本市新町2丁目）の後藤英世院長に内視鏡検査の必要性と適切な検査間隔についてお話を聞きました。

「大腸がんが増えているそうですね。後藤 がん年齢と言われる40歳以上に加え、近年は30歳代でがんやポリープに罹る人が増えています。しかし、この年代や特に若い女性の定期的な大腸がん検査の受診数は、まだまだ少ないのが現状です。」

定期健診などで便潜血検査（FOB）を受診し、安心されている方も多いと思いますが、この検査だけでは稀に、進行性の大きながんでも見落とすことがあります。症状として表れた時にはがんが進行しているということにならないためにも、定期的な内視鏡検査をお勧めします。

「どのくらいの間隔で検査をすればいいのですか。」

後藤 大腸は長く、多くのヒダがあり、このため、1回の検査では見落しがある可能性もあります。腸内の洗浄がきれいに出来ている状態で、2年は連続して検査を行い、ポリープやがんがなければ、その後は3年間隔で検査すれば良いという報告も出されています。

「大腸の内視鏡検査は抵抗感がある人も多いと聞きますが。」

後藤 当院の大腸内視鏡検査は、麻酔で寝ている間に行われ、20〜30分程度で終わります。女性の方にも気軽に検査を受けていただけるよう、毎週、木曜、土曜は女性の専門医2名が在籍し検査を担当します。また、毎週金曜日はレディースデイとし、女性スタッフだけで担当する女性専用の人間ドックを実施しています。

一人でも多くの方に大腸内視鏡検査の重要性を理解していただき、早期発見・早期治療につなげていきたいと考えています。



最新の内視鏡機器で大腸検査をする後藤院長

大腸検査を受けた方が良い方は・・・

- 親近者に大腸がんにかかった人がいる方
 - 血便がでた方
 - 下痢が続く方
 - 以前大腸ポリープがあった方
 - 便潜血検査で陽性がでた方
- （必ず大腸内視鏡による精密検査を受けてください）

服部胃腸科

服部胃腸科

〒860-0004 熊本市新町2-12-35 ☎096-325-2300
健診・人間ドックのお問い合わせ 0120-79-1800
FAX096-325-8845 http://hattori-clinic.com
全国健康保険協会管掌健康保険生活習慣病予防健診認定医療機関

がん予防は生活習慣の改善から

がん予防で重要なのは、①食生活②生活習慣③運動です。国立がんセンターは、「この3つについて、「がんを防ぐための12カ条」を発表しています。

《がんを防ぐための12カ条》

- バランスのとれた栄養をとる
- 毎日 変化のある食生活を
- 食べ過ぎを避け、脂肪はひかえめに
- お酒はほどほどに
- たばこは吸わないように
- 食べ物からビタミンと繊維質のものを多く摂る
- 塩辛いものは少なめに、熱いものは冷まして
- 焦げた部分はさける
- かびの生えたものに注意
- 日光に当たり過ぎない
- 適度にスポーツをする
- 体を清潔に



ご覧の通り、これらは目新しいものではなく、長年、一般的な健康作りが良いと言われてきたものばかりです。日ごろの生活を総点検し、12カ条を少しずつでも取り入れてみてはいかがでしょうか。